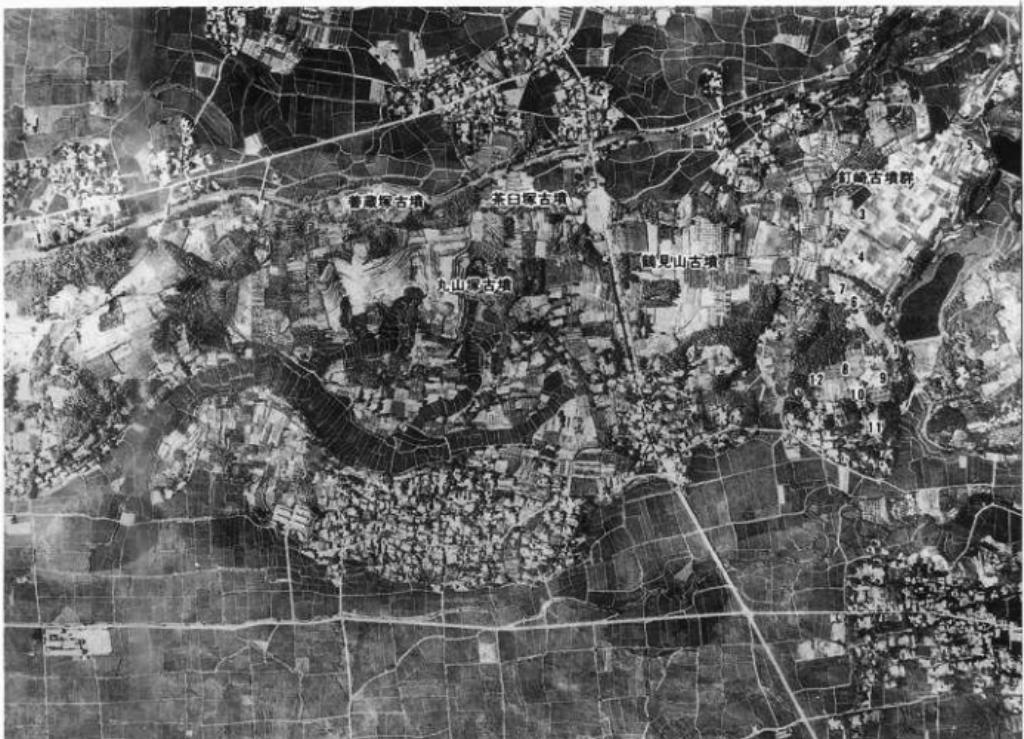


# 鶴見山古墳

福岡県八女市大字豊福所在古墳の調査

八女市文化財調査報告書 第14集



1986

八女市教育委員会

## 序

八女丘陵にある古墳群のうち、八女古墳群として岩戸山古墳をはじめ、大形の前方後円墳についてはほとんどが国の史跡として指定されていますが八女市大字豊福にある鶴見山古墳は、大形前方後円墳として、まだ未指定の古墳の1つです。

今回の発掘調査は、鶴見山古墳の規模等を確認し、今後の史跡指定や、環境整備に備えるための確認調査を実施したものです。

調査の実施にあたり、御協力いただきました地権者の皆さん、更には調査を御指導いただきました福岡出光美術館佐田 茂氏、福岡県教育庁南筑後教育事務所技術主査川添昭人氏、発掘作業員の皆さんに深甚なる謝意を表します。

なお、本書が今後の研究資料として活用いただければ幸いに存じます。

昭和61年3月31日

八女市教育委員会 教育長 坂田不二夫

## 例　　言

1. 本書は八女市が国・県の補助を受けて実施した八女市大字豊福所在、鶴見山古墳の史跡指定を目的とした範囲確認の調査報告書である。
2. 発掘調査は八女市教育委員会が主体となり実施した。
3. 出土遺物の整理は福岡県教育委員会岩瀬正信氏の指導のもとに、九州歴史資料館で行った。掲載した写真のうち昭和38年撮影の航空写真は石人石馬研究会（代表岡崎 敏九州大学教授）の提供による。また遺構の写真は赤崎敏男が撮影した。
4. 遺構の実測は赤崎、横田公己、田辺神奈が、浄書は赤崎と江上貴子が行った。
5. 本書の執筆・編集は赤崎が担当した。

## 目　　次

|           |    |
|-----------|----|
| I.はじめに    | 1  |
| II.位置と環境  | 1  |
| III.調査の概要 | 3  |
| IV.まとめ    | 10 |

## I はじめに

鶴見山古墳は八女市大字豊福字鶴見山にある。古墳は八女古墳群中、最も東側にある大形前方後円墳として古くから知られていた。しかし、昭和40年頃から周辺で果樹園の造成が始まり、当古墳も前方部の一部が削平されている。

調査の発端は昭和60年2月、地権者によって墳丘の一部が削平されたことによる。このため、八女市教育委員会と福岡県教育庁文化課で協議を行ない、昭和60年度に国の補助を受け、史跡指定のための範囲確認をすることになった。

調査は昭和60年5月13日から6月7日まで実施し、古墳の周囲に6本のトレーナーを設定して、墳丘規模や、周溝の確認を行った。この結果、墳丘や周溝の残りが非常に良いことが判明した。なお、後円部の東側については茶畠のため、確認調査ができなかった。

調査関係者は次のとおりである。

八女市教育委員会 教育長 坂田不二夫

社会教育課長・末継清四郎、社会教育係長・杉山信行、社会教育係・梅野満、平田高義、川口美文、松尾弘子、赤崎敏男（調査担当）、調査補助員・横田公己

調査作業員・星野明、西村政男、服部宗信、樋口茂俊、橋爪武輝、江崎ヤスエ、平嶋すえ子、樋口純美子、安達英子、田辺神奈、木下照代、江上貴子。

なお、調査にあたって福岡出光美術館佐田 茂氏、福岡県教育庁南筑後教育事務所技術主査 川述昭人氏、福岡県文化財保護指導員木附光雄氏、地権者の近藤清司、中島定一、近藤常男、国武興平次、国武 素、野上武久、江崎光義、中島静見の各氏はじめ、地元豊福町内会の皆様には多大なる御援助をいただきました。記して謝意を表します。

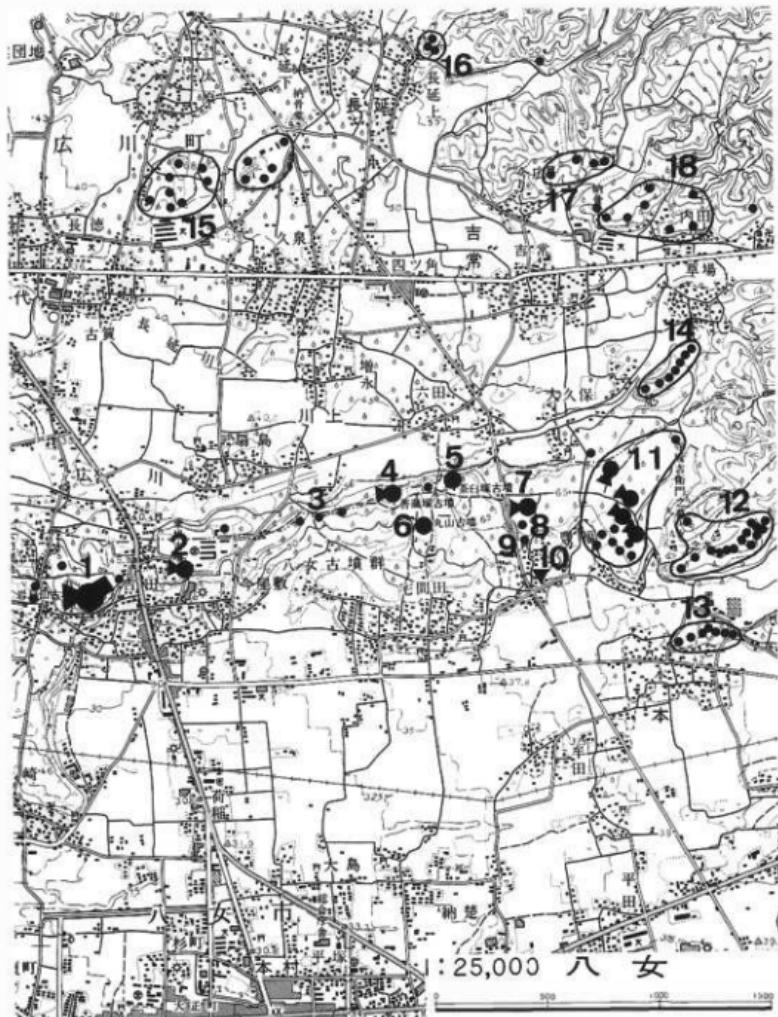
## II 位置と環境

鶴見山古墳は標高60m前後の八女丘陵上にあり、東側1.7kmに岩戸山古墳、1.5kmに乗場古墳、0.5kmに善蔵塚古墳、西側0.4kmの所に釘崎古墳群（前方後円墳4基）があり、八女古墳群において前方後円墳の集中する場所でもある。

古墳はすでに古くから知られていたが、昭和55年に福岡県教育委員会、八女市教育委員会によって墳丘測量を実施した。

後円部にある石室は盜掘を受けており、現在中央部が陥没している状態である。石室内部の構造や鉄刀・武人埴輪・円筒埴輪の出土、葺石の存在はすでに知られており、玄室は長さ2.2m、幅1.7mの長方形プランとされるが、複室構造かどうかは不明である。<sup>註1</sup>

鶴見山古墳の前方部南側には直径6m、高さ2mの鶴見山南古墳、直径15~26mの大神宮古



- |           |           |             |           |
|-----------|-----------|-------------|-----------|
| 1. 岩戸山古墳  | 6. 丸山古墳   | 11. 钉崎古墳群   | 16. 長延古墳群 |
| 2. 乗場古墳   | 7. 鶴見山古墳  | 12. 魔子島山古墳群 | 17. 吉常古墳群 |
| 3. 老闊田古墳群 | 8. 鶴見山南古墳 | 13. 本古墳群    | 18. 内田古墳群 |
| 4. 善藏古墳   | 9. 大神宮古墳  | 14. 堂賴山古墳群  |           |
| 5. 茶臼古墳   | 10. 豊福石人  | 15. 久泉古墳群   |           |

第1図 鶴見山古墳と周辺の古墳群(1/25,000)

墳があり、さらに南側200mの所には「豊福石人」がある。これら古墳の築かれた周辺は弥生時代から古墳時代にかけての豊福遺跡で、箱式石棺などが発見されている。<sup>註2</sup>

註

註1. 岩崎光ほか 「八女・山門」 八女山門社会研究会 1967

註2. 「重要美術品」 昭和11年指定。森本六爾 「石人の新例に就いて」 筑紫史談 第49集 1930

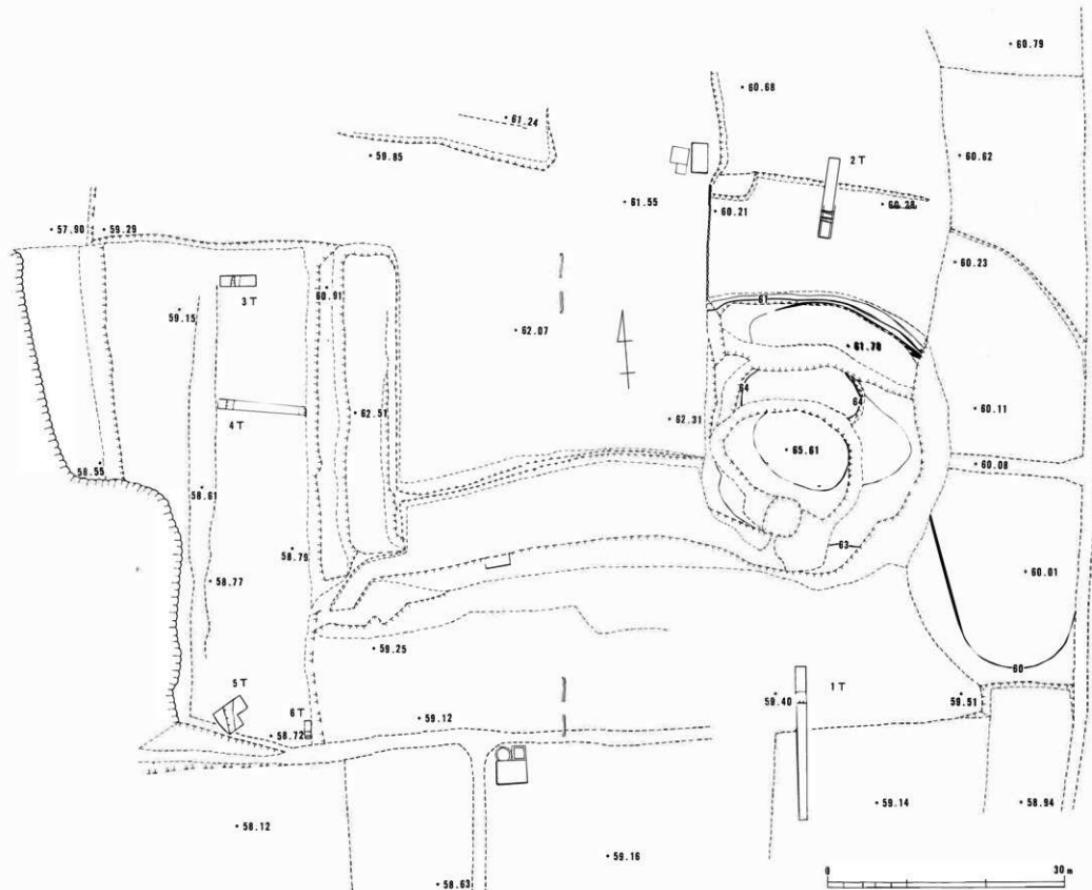
### III 調査の概要(第3図)

鶴見山古墳後円部は墳頂部で標高64.84mをはかる。現在は竹林で、北側で3段、南側で2段になっており、開墾によって改変が行なわれている。南側には大きな陥没があり、結晶片岩の石材の一部がのぞいていて、陥没の方向より、ほぼ南に開口するものと思われる。前方部は墳頂部で標高65.61mをはかるが、北側は梨園、南側は花樹園によって墳丘中程から削平を受けている。しかし、前方部西側は2段築造の痕跡が明瞭に残っている。

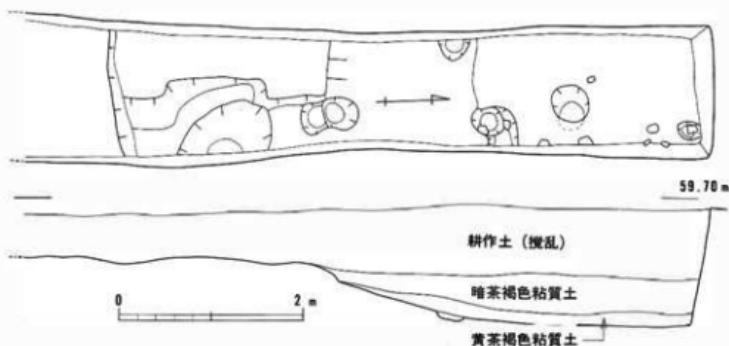
今回の調査は墳丘裾部や周溝の確認を目的としたため、後円部の南と北に1・2トレンチ、前方部に3~6トレンチの計6本のトレンチを設定して調査を実施したが、後円部・両側くびれ部は畠地となっており、墳裾部を正確に捉えることができなかった。前方部では4トレンチで墳裾部をおさえることができたが、南側の周溝コーナー部は農道のため、北側コーナー部は



第2図 鶴見山古墳(航空写真)(南から)[昭和38年撮影]



第3図 鶴見山古墳墳丘測量図(1/500)



第4図 トレンチ実測図(1/60)

果樹園のため調査ができなかった。

#### 1 トレンチ (第4・5図)

後円部の南側に設定した。調査の結果、上部は搅乱を受けていたが、周溝外側の立ち上がり部分と溝底を検出した。周溝底部には3個の小ビットがある。遺物は周溝底より円筒埴輪片が出土した。

#### 2 トレンチ (第6・7図)

後円部の北側に設定した。ゆるやかに立ち上がる周溝外側の立ち上がり部分と溝底を確認した。立ち上がり部分に3個の小ビットがある。遺物は溝底より円筒埴輪片が出土した。



第5図 トレンチ [南から]

#### 3 トレンチ (第8図)

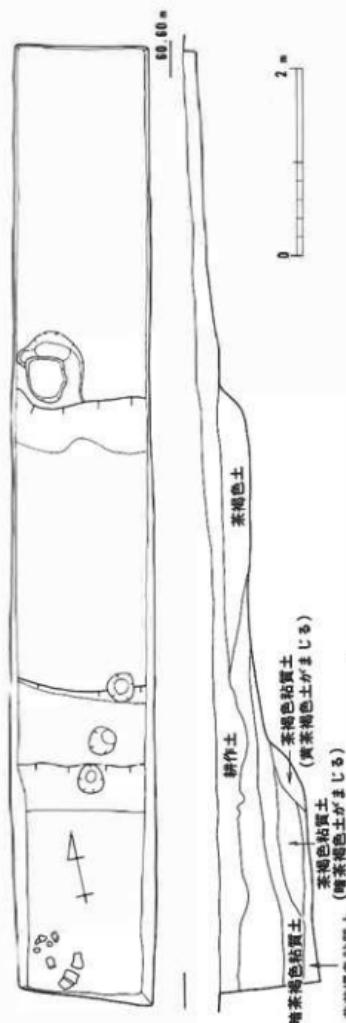
前方部西側に設定した。ゆるやかに立ち上がる立ち上がり部分と溝底を確認、コーナー部分がまだ北側になることが判明した。遺物は溝底より円筒埴輪片が出土している。

#### 4 トレンチ (第9・10・11図)

前方部西側に墳丘が一部かかるように設定した。周溝立ち上がり部はゆるやかで、やや大きなビットがある。墳丘部はほぼ30度の角度で立ち上がる。溝底には墳丘から落下した葺石や円筒埴輪が多量に堆積しており、完形品もある。

#### 5 トレンチ (第12・13・14図)

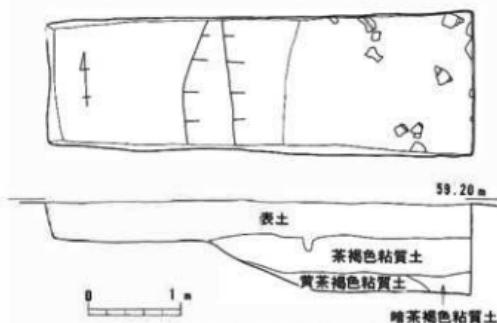
前方部周溝の南側コーナー部分に設定した。周溝外側の立ち上がり部分と溝底を検出した結果、わずかにカーブ部分があり、南側に隣接する農道下にコーナー部分が入ることを確認した。



第6図 2トレンチ実測図(1/60)



第7図 2トレンチ[北から]

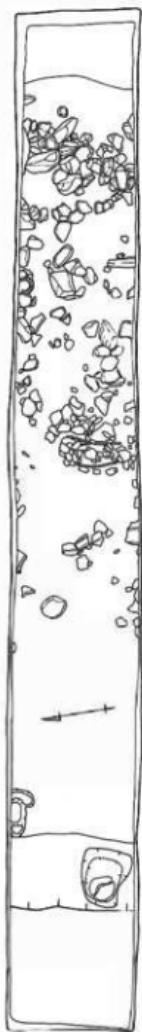


第8図 3トレンチ実測図(1/60)

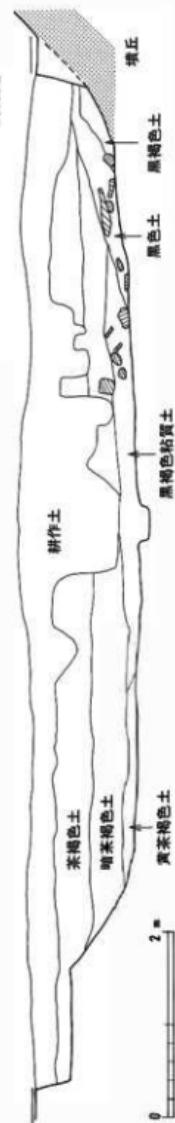
立ち上がり部分は2段になってゆるやかに立ちあがり、溝底とともに大小のピットが多数ある。遺物は溝底より円筒埴輪片が出土した。

#### Bトレンチ(第15図)

5トレンチでコーナーが検出できなかったため設定し、ゆるやかに立ち上がる周溝外側立ち上がり部分と溝底を確認した。溝底と立ち上がり部分に小ピットがある。遺物は溝底より、円筒埴輪片が出土した。



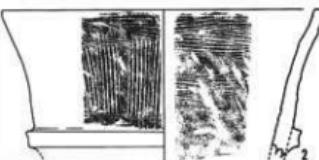
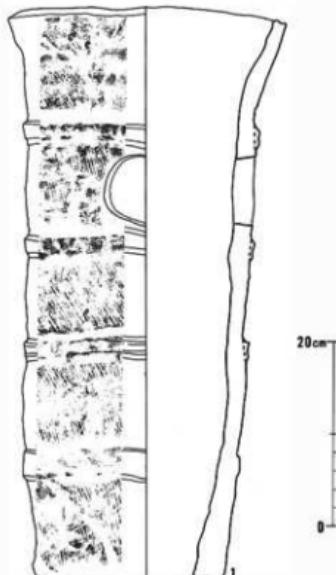
第9図 4トレンチ実測図(1/60)

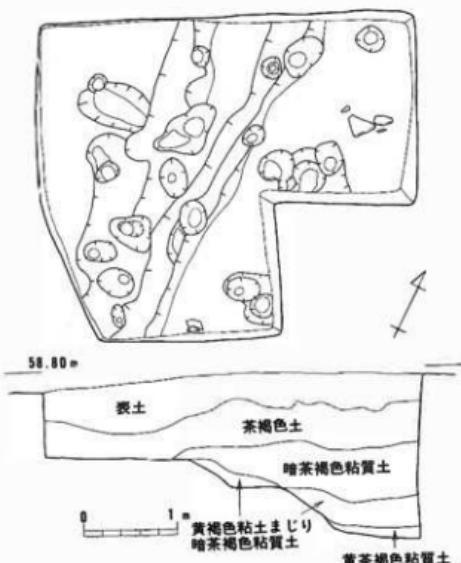


- 8 - 第11図 4トレンチ出土埴輪実測図(1/6)



第10図 4トレンチ(西から)





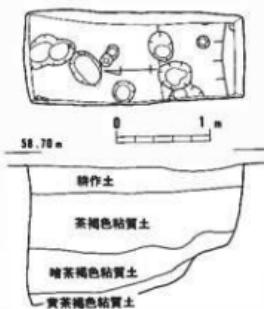
第12図 5 トレンチ実測図(1/60)



第13図 5 トレンチ出土埴輪実測図(1/60)



第14図 5 トレンチ〔南から〕



第15図 6 トレンチ実測図(1/60)

## IV まとめ

今回の調査結果によって、鶴見山古墳は主軸をほぼ東西にとり、墳丘の全長約85m、後円部径約40m、現況で高さ約5.5m、前方部幅約50m、現況で高さ約6mと判明した。周溝幅は10mから15mあり、東側については周溝外側を示すと思われる畦畔が明瞭に残っているため、この部分を東端すると、周溝まで含めると全長約110mの前方後円墳となる。

八女古墳群における鶴見山古墳は、規模から見ると岩戸山古墳（墳丘長約135m）、石人山古墳（墳丘長約110m）、善蔵塚古墳（墳丘長約90m）に次いで4番目の大きさとなり、乗場古墳（墳丘長約70m）をしのいでいる。

出土遺物は円筒埴輪以外出土していないため、時期的に捉えることは難かしいが、埴輪の形態等により6世紀中頃から後半頃と考えられる。

鶴見山古墳はその規模や時期から、岩戸山古墳に続く乗場古墳、善蔵塚古墳とならんで、筑紫君家の墳墓と考えることができよう。

### 鶴見山古墳

八女市文化財調査報告書 第14集

昭和61年3月31日

発行 八女市教育委員会  
八女市大字本町647

印刷 青柳工業株式会社 印刷部  
福岡市東区箱崎ふ頭6-4-4